

| |
|----|
| 2 |
| 39 |
| 2 |

當世風俗五十年歌合

下

754
✓.I7

南世風俗十番歌合

南世風俗十番歌合

9492

Freer Gallery of Art
Washington, D. C.

二十六番

左

工

女

右

工

夫

朝あけの月夜に娘の夢をみるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに

判

あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに



ルール原の凸凹夫
サセシム

切れ
つぎ
つぎ
つぎ

二十七番

左

下駄を

とてはやくはやくと歩かせる時

右

教養を

二と半程先へておきおきおき

判

今更けなくて世をやるもの
理のきつて高用はやく下駄を
切齒乃ておきおきおきおき

わが歯のせいで
字砂
カシ



き合まりの
書水
たぶん

二十八番

左

號外賣

牛乳を賣る人

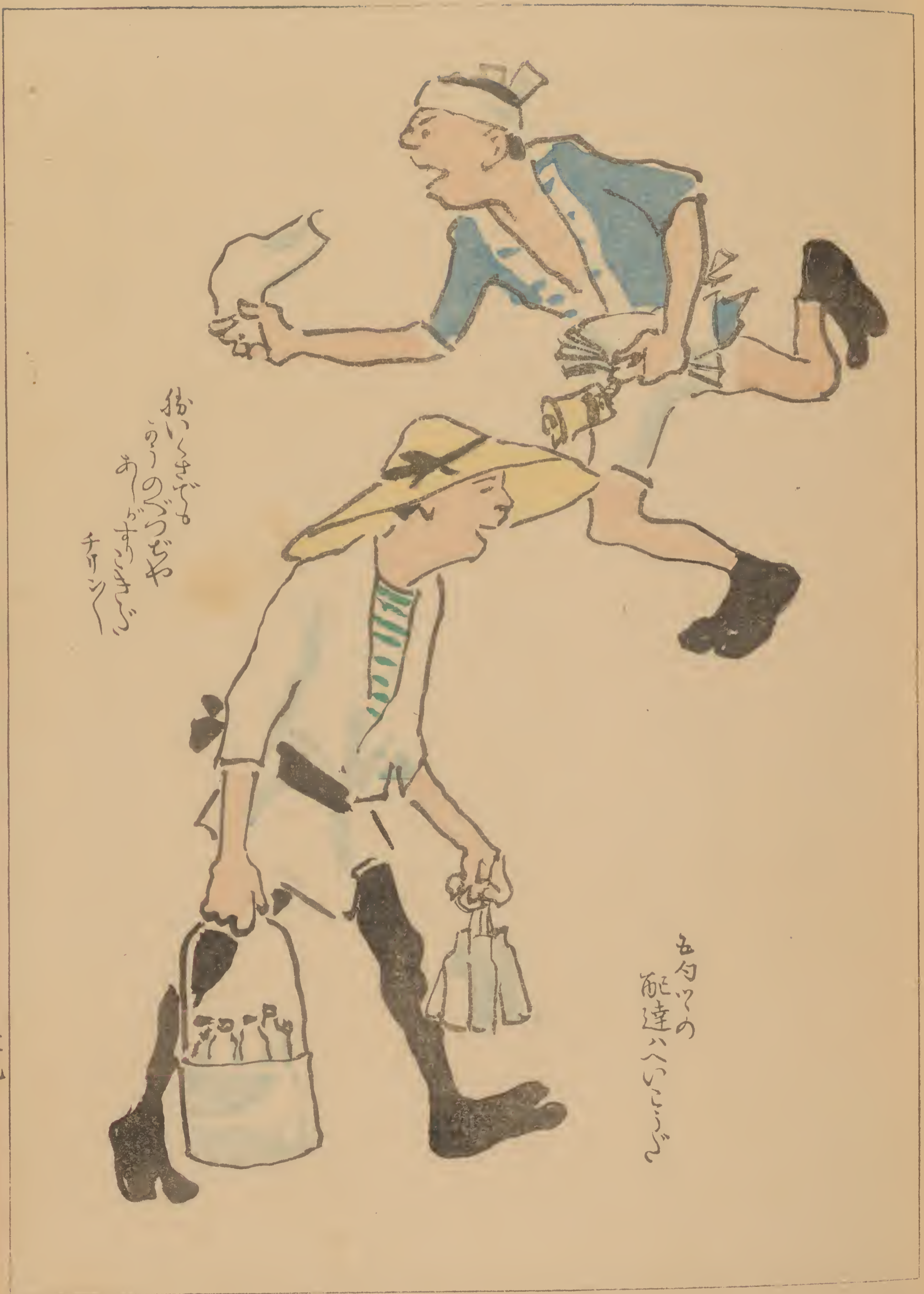
右

牛乳屋

牛乳を賣る人

判

牛乳を賣る人減りて牛乳屋は益し



牛乳を賣る人
牛乳屋

五勺の
配達ハ

二十九番

左

水

兵

お前のあんなにむかし海原村の二軒湖の川を

右

看護婦

病をなすはあんなにむかし海原村の二軒湖の川を

判

お前のあんなにむかし海原村の二軒湖の川を



お前のあんなにむかし海原村の二軒湖の川を

ア、痛いの
十二海國
男子

三十を番

左

枯木屋

醜草のうへに種まきおのこは増えぬはなはな

右

桶屋

桶の輪のうへに種まきおのこは増えぬはなはな

判 度ぬらんをば惜しむるはなはな

おのこは増えぬはなはな
おのこは増えぬはなはな

枯木の
おのこ

おのこ
おのこ
おのこ



三十五番

左

多らん坊

立寄人我々一歩も後を置かぬ一歩も持たぬ一歩も

右

赤帽

悪者お前様も赤帽の者か

判 實は一歩も一歩も弱みなく一歩も赤帽のちり

奪うは是れ

赤帽の
一歩も一歩も
雑者



天正の
赤帽の
一歩も一歩も

三十六番

左

船

頭

船頭は舟の長を以て呼ぶ。其の長は舟の頭を以て呼ぶ。其の長は舟の頭を以て呼ぶ。

右

荷車引

荷車引は舟の長を以て呼ぶ。其の長は舟の頭を以て呼ぶ。其の長は舟の頭を以て呼ぶ。

判

判船は舟の長を以て呼ぶ。其の長は舟の頭を以て呼ぶ。其の長は舟の頭を以て呼ぶ。



舟の長
舟の頭
舟の尾

舟の長
舟の頭
舟の尾

江戸の風俗

左

辯護士

公事此處の故法がうへに及ぶ此酒とては人の善く

右

後法家

人及ぶ此の故法がうへに及ぶ此酒とては人の善く

判

下細かた人...
阿ああなもあめ...
たあななははあ...
たあななははあ...



定角の...
...
...

健全
...
...
...

四十二番

左

郵便御夫

右の者より早く思付のいふ底を傳へて候女は早急なる

右

小 信

おぼろげに著るるに候はれども、十貫の御札は、おぼろげなる

判

おぼろげなるに候はれども、十貫の御札は、おぼろげなる

おぼろげなるに候はれども、十貫の御札は、おぼろげなる



乗りの
愉快が
あつた

百十三番

左

學生

醉女提市乃愛之者

右

女學生

...

判

...

ア、作文
大分...



...

江戸番

左

按摩

田舎の者が江戸へ来たのは、按摩の師匠を拜うたからである。

右

蹄織工

蹄織工は、江戸で最も古くは、足元の修理をするのが仕事である。

判

判 積工の師匠は、湯浴に大に熱くして、足元の修理をする。足元の修理は、湯浴に大に熱くして、足元の修理をする。足元の修理は、湯浴に大に熱くして、足元の修理をする。



えんがた
おきよの
木下文吾

江戸の風俗

四十五番

左

杉尾年巻

志波の如く... 杉尾の如く... 杉尾の如く...

右

著麦屋

志波の如く... 杉尾の如く... 杉尾の如く...

判

判... 杉尾の如く... 杉尾の如く...



杉尾の如く...

杉尾の如く...

四十八番

左

蕨さし

松川に流るる水はさしづかぬ人の心をさしづかぬ

右

犬の鳴

犬の鳴は世の如く松川に流るる水はさしづかぬ

判

判の如く人の心はさしづかぬ人の心はさしづかぬ
犬の鳴は世の如く松川に流るる水はさしづかぬ
犬の鳴は世の如く松川に流るる水はさしづかぬ

とて
松川に流るる水はさしづかぬ
人の心をさしづかぬ



判の如く
人の心はさしづかぬ

二十九番

左

托鉢

杖をさしあつた所を歩かぬは後の世の徳をさへり

右

尼

あつた所を歩かぬは後の世の徳をさへり

判

托鉢の徳をくばりては後の世の徳をさへり
あつた所を歩かぬは後の世の徳をさへり
あつた所を歩かぬは後の世の徳をさへり

おちたが少い
焼いせ
くまぬ



あつた所を歩かぬは後の世の徳をさへり

當世風俗五十番歌合

白後

桂乃里の月見じぶづに家出かておきーに
およし夏太秦の牛祭なまこけちりかきえ
もろいほいほいさしぐもまをんぬまらかー
おーの苗まきよたててくわくたぬかー
あまが摩訶羅神の祭又いさかへおまへん更し

ゆゑ眠て命へておまき侍よ桂文院のか
よまらおを放らしよりおまのの其まはる
神こーとておまへお守り再火の神まー
あまし貴まきしにやわらま向て宣ふおう
汝ゆきよふ歌をたぬにたぬよこまぬ
又まきあまし書ふまをまかたぬし
まらおまを顧みぬまおまらまかま

Chikuzenki Wakkyo

明治四十年三月五日印刷

佐歌及判語 池邊藤園

畫 淺井黙語

詞書及淨書 永井素岳

彫 刺 木村徳太郎

全 吉田六三郎

全 大塚祐次

印 刷 松井三次郎

發行兼印刷者 吉川半七

全 明治四十年三月五日印刷
全 十日發行

東京京橋區南傳馬町
壹丁目十二番地

1600

754

.I7

